

温泉郷—箱根の経営モデルの研究

1. 目的

小田急電鉄は箱根商圈を広めて、ゴールデンコースという観光路線を作って、多くの観光客を引き込んだ。そして、温泉旅館と名物がそのため宣伝され、箱根自分も発展を進んでいる。つまり、今箱根の経営の成功は、小田急電鉄を無視できない。本発表の目的は箱根経営モデルを研究する元で、小田急電鉄の大切さをはっけんすることである。

2. 背景

現在はおみやげ物屋が立ち並んでいるが、かつての箱根湯本温泉は、山あいの一角を占める小さな温泉地であった。江戸中期から後期あたりになると、庶民の間で湯治を兼ねた温泉旅行が大ブームになって、明治以後、箱根は保養地、観光地としての開発が進んだ。大正八年から小田急電鉄のおかげで、箱根七湯のうち6つを結ぶ路線としてはじめて計画された。今箱根では多様な路線と乗り物があり、観光客は温泉を体験だけでなく、箱根の自然景色も楽しめる。

箱根の経営モデルには小田急電鉄に与えられた影響がみつけられる。箱根フリーパスという切符だけを買って、都心の新宿から外の景色を見られるようにデザインの箱根ロマンスカーを乗って、箱根湯本に到着できる。その後、箱根登山電車で箱根山を登って早雲山駅まで、その途中で温泉旅館が数多くある強羅と彫刻の森美術館を経られる。早雲山駅から最も人気な箱根ケーブルカーを乗って、広い森と富士山を含む風景が見え、大涌谷を経て桃源台に到着する。それから、芦ノ湖海賊船の甲板で立ち、芦ノ湖の碧水と富士山を見て、ゆっくり箱根町港に来る。その後箱根登山バスを乗って湯本に帰る。それは箱根ゴールデンコースという。

小田急電鉄が箱根を開発しつつ、箱根の商店街と温泉旅館の発展も刺激された。箱根で、最も有名なお土産は黒卵と寄木細工しかない。今の箱根温泉旅館は大体高級化を目指している。国際化とともに、旅館内は洋室と和室、両方も準備していた。宿泊料金は高いけど、高級料理で朝食と夕食が含まれている。お客さんに最大限の体験を与えて、最大限にプライベートを守れ、個室も提供していた。

3. 方法

箱根の経営モデルを究めるために、以下の方法を採用する。

- (1) 事前文献調査を行う。
- (2) 箱根に実地調査を行う
- (3) 調査の結果をまとめて、箱根経営モデルを構築して、小田急電鉄の大切さを分析する。

<参考文献>

『小田急箱根交通ガイドブック』
2019. 4. 1

『大涌谷くろたまご館』

http://www.owakudani.com/kurotamago_e

『箱根名物のそば』

<https://www.icotto.jp/presses/2411>

『小田急箱根ナビ』

<https://www.hakonenavi.jp/feature/7594>